



釜石の少女、冷静に覚悟「人命こそ第一」

校長 田中 俊光

小冊子「ラグビーワールドカップ2019をめぐる15のストーリー～ラグビー精神をレガシーに～Gakken」に次のような記事がありました。

2019年秋に日本で開催された「ラグビーワールドカップ2019」。オリンピック・パラリンピック、サッカーワールドカップと並ぶ世界3大スポーツイベントの一つであり、日本代表の活躍もあって大きな盛り上がりを見せました。10月13日に岩手県釜石鶴住居復興スタジアムで行われる予定だった1次リーグB組最終戦、ナミビア対カナダは、台風19号の影響で中止になりました。両チームの入場時に、審判団とともに試合球を持って入場する「ボールデリバリーキッズ」（デリバリー：配達）の少女も、晴れの舞台に立てませんでした。

釜石市の小学校に通う少女の父が、フェイスブックに投稿したストレートな想いが反響を呼んでいます。2011年の東日本大震災を教訓に、被災地の子供たちは人命の尊さ、復興の大切さを学び、しっかりと胸に刻んでいました。

おはようございます。初めて投稿致します。初めての投稿が長文となり申し訳ございません。

先ほど、釜石で開催予定でしたラグビーワールドカップ2019カナダ対ナミビアの中止が発表となりましたね。今回、中止となった試合のマッチボールデリバリーキッズを担当する予定だったのは我が家の長女でした。長女は**現在小学校4年生**で、釜石でラグビーを1年生の時からプレーしております。今年の春先にマッチボールデリバリーに当選したことを知った時、長女は跳んで喜んでおりましたが、一生に一度の素晴らしい体験ははかなく消えてしまいました。

釜石で生まれ、釜石でラグビーを始め、釜石でワールドカップの試合が開催され、そのマッチボールデリバリーキッズとなることができる。そのことにどんな想いが詰まっていたことか…。長女に試合が中止になったことを伝える前に私が泣いてしまいました。

先ほど、スポンサーサイドから改めて中止の連絡を受け、長女に台風の影響により中止になったことを伝えたと、半年以上前から楽しみにしており、**カナダとナミビア国歌を暗記してきた**ことから、大泣きすることを覚悟で伝えましたが、意外と冷静な反応で受け止めておりました。もちろん、悲しさや悔しさ、台風への憤りはあると思うのですが、それにしても冷静すぎると思ひ、真意を聞いたところ、**今週始めから台風が来ることはわかっていたこと、東日本大震災を1歳で経験し、その後震災について学習を徹底的にしてきた子供たちですので、人命第一であり災害時にイベントをやるわけがないと思っていたとのこと**です。

私は、ハッとさせられました。

8年前に震災により、我が家の家族は人命は守ることができましたが、家財の大半と住むところを無くしました。釜石市を含む東北太平洋側の沿岸部は未曾有（いまだかつてあらず）の被害を受け、やっと復興が形になってきており、災害時にまずは生きることが何よりも大切なことを身をもって体感したはずの私たちですが、今回の試合中止の判断に、**時間をずらしての対応は出来ないのか？ 無観客試合でも開催出来ないのか？ と異論を唱えるところ**でした。

我が子の一生に一度の体験は台風によりなくなりました。事前にスポーツ新聞や地元のメディアの取材に対応し、いよいよ本番という時に台風によりその貴重な機会を失うことになった長女がかわいそうだと思いますが、それよりもまずは人命、建物被害に見舞われた方のことを思い災害復旧に努めるのが我々ラグビーに関わる者の本来の姿であることを、先ほど長女に気づかさ

れました。

台風の被害に遭^あわれた方々の一刻も早い復興を心からお祈りしておりますし、東日本大震災時に受けたご恩は忘れておりません。私たちも出来ることを手伝っていきたくて考えております。そして、10月12日に残念ながら中止となってしまった2試合のマッチボールデリバリーキッズやエスコートキッズ、楽しみにしていた観客の皆様、我が家の長女を含めた釜石^{かまいし}での開催を熱望されていた皆様に、今後違った形で幸せが訪れることを願っております。我が家の長女はラグビーは素晴らしいスポーツだと言い、これからももちろん続けると意気込んでおります。組織委員会の下した決断を私は正解だったと思います。皆様、まだまだラグビーワールドカップ2019大会は続きますし、これからますます盛り上がります。一緒に楽しみましょう!! 長文失礼いたしました。

佐々木忠平>ラグビーファミリー

(記事提供：日刊スポーツ新聞社2019年10月14日付)

世界の名言

残りの紙面では、私が好きな「世界の名言」を紹介します。

「湖^{みづうみ}に浮かべたボートをこぐように、人は後ろ向きに未来へ入っていく。目に映るのは過去の風景ばかり。明日の景色は誰も知らない」 ポール・ヴァレリー (フランス・作家、詩人)

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である」 チャールズ・ダーウイン (イギリス・自然科学者)

「天国への道はいばらの道だが、地獄への道は大人の善意^{ほそう}で舗装されている」
サミュエル・ジョンソン (イギリス・文学者)

「大偉業を成し遂げさせるものは、体力ではない。持久力である。元気いっぱい1日3時間歩けば、7年後には地球を1周できる」 サミュエル・ジョンソン (イギリス・文学者)

「障害は不便ですが不幸ではありません」 ヘレン・ケラー (アメリカ・全盲全聾の福祉活動家)

「弱い者ほど相手を許すことができない。許すということは強さ^{あかし}の証だ」
マハトマ・ガンジー (インド・非暴力の独立運動家)

「“目には目を”では、世界が盲目になるだけだ」
マハトマ・ガンジー (インド・非暴力の独立運動家)

「美しい唇^{くちびる}であるためには、美しい言葉をつかいなさい。美しい瞳^{ひとみ}であるためには、人の美点を探みなさい」
オードリー・ヘプバーン (イギリス・大女優)

「若いころ私は、10回に9回は失敗することに気が付いた。だから、10倍働いた」
バーナード・ショー (イギリス・ノーベル賞作家)

「ディズニーランドは、いつまでも未完成である」
ウォルト・ディズニー (アメリカ・ディズニーの創始者)

「あなたが生まれた時、あなたは泣き、周りは笑っていたでしょう。だからあなたが死ぬ時は、あなたが笑って、周りが泣いているような人生を歩みなさい」 ネイティブ・アメリカンの教え

「卓越^{たくえつ}したプレーは、突然できるようになる」 大谷翔平 (日本・野球選手)

「本当に大切なことは、後になって分かる」 小川洋子 (日本・作家)

「たゆまざる 歩みおそろし かたつむり」 北村西望 (日本・彫刻家)

「難しいことを易^{やさ}しく、易^{やさ}しいことを深く、深いことを面白く」 井上ひさし (日本・作家)

「大丈夫だ 心配するな なんとかなる」 一休宗純 (一休さん) (日本・室町時代の禅僧)

「努力する人は希望を語り、なまける人は不満を語る」 井上靖 (日本・小説家)

「雨が降れば傘をさす。こけたら立ちなはれ」 松下幸之助 (日本・パナソニック創始者)